

* 日本の小惑星命名宝鑑 (1997年小惑星会議) 大量に収集

国立天文台堂平観測所は2000年(平成12年)に閉所された。その際、法月技研に譲渡されたAFUカメラを国立天文台天文情報センター・アーカイブ室にお譲りいただいたニュースをアーカイブ室新聞33、34号に書いた。

このAFUカメラと一緒に富田弘一郎氏が大量の本を法月技研に譲っていたことが分かり、この本もアーカイブ室に譲り受けようとしたところ、これらは一般に言われる書籍ではなく、「日本の小惑星命名宝鑑」というファイルであることがわかった。

そこで、法月技研でも扱いにお困りのようだったので、日本の天文学の社会で有効利用しようと、とりあえずアーカイブ室にお譲りいただいた。中桐の手許に125冊が收藏された。この宝鑑はその道の人にとってはよく知られた存在だったようで、全く専門外であった中桐には初めて知ったもので、なかなかおもしろいものであった。

「日本の小惑星命名宝鑑」は、富田さん始め、彗星・小惑星会議の方々の長年の努力の結果できあがったもので、1997年末までに発見・命名された小惑星のうち、日本に関係する502個の小惑星の発見、命名の経緯など発見者や命名のエピソードをまとめた資料集で、製本された本ではなくバインダーのファイル(写真1)である。



写真 1 ファイル形状の宝鑑

この宝鑑の内容は、日本に関連する小惑星の全リストと、小惑星ごとにIAUで承認された命名の解説、そして登録番号獲得時の軌道情報などを解説がついている。また、ケレス

発見 200 年記念日の各小惑星の軌道図や、世界の天文台コード一覧、小惑星の命名に関する IAU の取り決めの資料なども収録されている。命名された人物の写真などもあり、結構楽しめるものである。天文情報センター質問電話係のところにも 2 冊が置いてあった。

この「日本の小惑星命名宝鑑」をインターネットで調べてみると、まだ有料で頒布されている事になっている。頒布の一つは無くなった富田さんにコンタクトするようにと案内が出ている。この「日本の小惑星命名宝鑑」はとりあえず、中桐の手許に 125 冊が収蔵してある。有効利用については関係者と相談して進めたい。写真 2 は山と詰まれた「宝鑑」である。宝の山か？ はたまたゴミの山か？



写真 2 「日本の小惑星命名宝鑑」の山